

ひろか だより

第365号

令和4年12月15日

発行

弘果 弘前中央青果株式会社

TEL 0172-27-5511

弘果



歳末大開放

年末のお買い物は弘前水産で!

25日(日)は休場日です

12/24(土)~30(金) 毎朝 午前10時まで

弘果この一年

令和4年も残すところあと僅かとなりました。この「コロナ禍」での新型コロナウイルスの大流行から約3年が経ちました。「ウイズコロナ」に向けて大きな転換期を迎えています。また、ロシアのウクライナ侵攻や急激な円安の影響により、原材料価格やエネルギー価格が高騰し、物価上昇につながる等、国際・経済情勢は目まぐるしく変化しています。

農業面においては、8月の全国的な豪雨により、各地で災害が発生しました。青森県もその影響による被害が甚大で、直接的な農作物への被害は勿論、生育に大きな影響を及ぼし、需給バランスや消費動向、価格等が大きく変動しました。そこで、当社取扱いのりんご、やさい、国産果実、輸入果実それぞれの令和4年を振り返ります。

りんご

令和4年産りんごは、各品種共に前年を上回る着果量となりました。しかし、8月の豪雨により、甚大な被害を受けた園地が広域で見られ、直接被害の無い園地においても、その後の生育に大きな影響を及ぼしました。

津軽りんご市場が数量181万2千箱(同104.1%)、平均単価4420円(同89.9%)と、高水準であった昨年と比較して、数量増の単価安で取引されました。早生種について、「つがる」は、平年と比べて玉伸び、着色が良く、順調な生育となりました。販売面では、他県産の品質低下から引き合いが強くなり、概ね順調な取引となりました。

中生種について、「トキ」は、適期収穫を徹底した結果、食味良く仕上がったことから海外からの引き合いが強くなり、大玉を中心に堅調な取引となりました。

「早生ふじ系」は、順調な生育で、肥大も良く推移しましたが、9月は夜温が高く、台風の影響もあり、着色管理が遅れたことで収穫も遅れました。販売面では、ヤケ果、ツル割れが多いものの、小玉を中心に引き合いが強くなり、堅調な販売となりました。

「ジョナゴールド」は、長期貯蔵用の仕入れから堅調な取引となりました。しかし、9月の高温の影響から、袋の中のヤケ果、また、除袋作業後のヤケ果が多かったことや、夜温が高かったことにより着色が進まず加工へ回った物が多くなり、出荷減となりました。

晩生種について、「王林」「有袋ふじ」は、各品種ともに肥大も良好で、大玉傾向の出荷となりました。販売面では長期貯蔵用の仕入れから堅調な取引となりました。「サンふじ」は、上実の



入荷は昨年を上回ったものの、ツル割れ等の下位等級品も多く、また他県産りんごの数量増から上実から下位等級品まで、平均単価では高水準で推移した前年を下回りました。

弘果りんご部及び津軽りんご市場では、生産者の利便性、労働力軽減を図る取り組みとして、弘果りんご部で9か所(岩木、目屋、小沢、大鰐、平賀、浪岡、鬼沢、十面沢、秋田県北)、津軽りんご市場で3か所(五所川原、鶴田廻堰、鯉ヶ沢建石)の集荷場を開設しました。また、選果処理能力及び品質向上を目的に、選果機稼働による選果委託品販売の強化等を行いました。

やさい

野菜の動向として、天候やコロナ禍が、生産消費に大きな影響を及ぼしました。

年明けから春先にかけて、関東地方で低温と干ばつの影響から、殆どの品目で生育の鈍化から出荷量が減少したことにより、相場高で推移しました。青森県産主力の長芋とニンニクは、新型コロナウイルス感染拡大の影響から輸出がストップしたことや、コロナ禍で業務需要が減少したことにより、国内の出回り量が多くなり、単価安が続きました。また、玉葱については、北海道産の不作、九州産の出荷量減少、中国産の日本入荷が無い影響で、全国的な品薄から価格が高騰し、過去にない程の



高値となりました。

6月以降は、東北や北海道で、春からの低温と干ばつの影響で生育が遅れ、出回り量が減少したことから単価高で推移しました。しかし、梅雨明け後の関東以西では真夏日が続く、末端での荷動きが悪く、安価な品物が出回りました。

8月の青森県内は、降雨と曇天の日が多く、3日、9日の豪雨災害により、殆どの品目が影響を受けました。特に「栗こ南瓜」「嶽キミ」「車力牛蒡」が甚大な被害を受けました。

9月から10月中旬にかけて青森県内では、7月からの降雨と曇天の影響から、大型野菜を中心に殆どの品目で出荷量が減少し、単価高が続きました。しかし、消費者の節約志向から末端での動きが鈍化しました。10月中旬以降は、青森県産のキャベツや大根が生育良く潤沢な入荷となり、関東産の出始めと重なったことで、総体的に出回り量が多く、大型、葉物、果菜類の殆どの品目が単価安となりました。今後も年末にかけて豊富な入荷量が見込まれております。

国産果実

県産果実の動向として、「アムさん」メロンは、肥大型の天候に恵まれたこともあり、概ね大玉傾向で推移しましたが、高温障害によりヤケ果が多く見られました。販売面では、ギフト需要の高まりから引き合いが強くなり、順調な取引となりました。一方、8月の豪雨災害により、収穫を目前にした「ハニーゴールド」メロンが園地冠水により大きな被害を受けました。また、「つがりあんピーチ」や「シュガープルーン」は、実割れや軟化品が多くなり入荷減となりました。「スチューベン」をはじめとするぶどう類は、正品率の低下や病気の発生等により入荷減となりました。

県外果実では、各品目とも概ね平年並の作柄となりましたが、資材や輸送費のコスト高による単価高や各種値上げにより、末端での荷動きが悪く、販売苦戦が続いております。

輸入果実

輸入果実の動向は、気候的、政治経済的な要因に大きく左右されます。令和4年の輸入果実の入荷量や相場形成、販売面に大きな影響を及ぼした要因として、①世界的なコロナ禍により、ロックダウンによる産地間流通の停滞、各産地や港湾の労働者不足、輸出入コンテナが各国で滞留していることによるコンテナ不足等が発生したこと。②世界的な気候変動が生育に大きく影響し、品質が不安定となっていること。③ロシアのウクライナ侵攻の影響による、原油や原材料価格の高騰による輸送費等の値上げ。④円安により高い仕入れとなり、国内での売れ行きが、過去に類を見ない程に厳しいことが挙げられます。

こうした要因から、産地での生産コストや、日本への輸送コストの上昇、円安による影響で、値上がり傾向が続くと予測されます。

精算所営業時間案内

弘果精算所
 【期間】～12月29日(木)
 【時間】6:30～17:00
12月20日・12月29日は15:00まで
 【期間】1月5日(木)～
 【時間】7:00～16:00

津軽市場精算所
 【期間】～12月29日(木)
 【時間】8:00～17:00
12月29日は12:00まで
 【期間】1月5日(木)～
 【時間】8:00～16:00

両市場とも土曜日・市場休日は休みです

止市 初市

【弘果 弘前中央青果】 りんご 12月28日(水) 午前8時～	【弘果 弘前中央青果】 青果 1月5日(木) 午前6時30分～
青果 12月29日(木) 午前6時～	りんご 1月5日(木) 午前8時～
【津軽りんご市場】 12月28日(水) 午前8時～	【津軽りんご市場】 1月5日(木) 午前8時～
【弘前花き】 12月28日(水) 午前10時～	【弘前花き】 1月5日(木) 午前10時～

各市場とも止市・初市当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、入場時の検温及びアルコール消毒を行います。また、必ずマスクを着用してご来場ください。

農業の未来を拓く！ 新規就農者



石井 卓さん (39)

【園地所在地】
鯉ヶ沢町小屋敷

【家族構成】
妻、子供2人

【作付状況】
りんご1.6畝

農業に大きな夢と希望を抱いて就農した人にスポットを当てて紹介します。農業の未来を切り開く就農者を弘果グループは応援します。

【就農年】
2021年

【きっかけ】郵便局に勤めていたが、自分で何かを生産していきたいという気持ちで強く、色々調べていくうちに農作物へ行き着き、中でも「シャインマスカット」に魅力を感じました。そこで、「とにかく行動あるのみ」と栽培する畑を買い求めましたが、農業経験が無い私に売ってもらえずに途方に暮れました。しかし諦めずに自力でシャインマスカットを栽培している農園を探し、土日に手伝いを始めました。手伝いからスタートしましたが、もともと本格的に農業に携わりたい気持ちが高く、当時は家族の反対もありましたが郵便局を退職し、こ

う気持ちで強く、色々調べていくうちに農作物へ行き着き、中でも「シャインマスカット」に魅力を感じました。そこで、「とにかく行動あるのみ」と栽培する畑を買い求めましたが、農業経験が無い私に売ってもらえずに途方に暮れました。しかし諦めずに自力でシャインマスカットを栽培している農園を探し、土日に手伝いを始めました。手伝いからスタートしましたが、もともと本格的に農業に携わりたい気持ちが高く、当時は家族の反対もありましたが郵便局を退職し、こ

の農園に就職しました。こちらではりんごも栽培しており、その作業に係わることも多くなったことで、りんご栽培がとても楽しく、やり甲斐を感じていました。その最中、友人の紹介でりんご園0.6畝購入の話があり、迷わずに決断し、これを機に独立して専業農家となりました。

【現在】6畝から始まり、今年には更に1畝のりんご園地を借用して、日々の栽培・収穫作業に励んでいます。現時点では、仕事がつらいと感じることは無く、むしろ楽しいとさえ思っています。仕事（農業）も人生も、その成果が「たわわ」に実を付けて、良い収穫が出来る（納得がいく結果を出せる）様に、真摯に励んでいきたい。

【座右の銘】「たわわ」「大きく育つ」「豊富に実る」という意味に通じるこの言葉が好きで、自分の商号「たわわ農園」として使っています。仕事（農業）も人生も、その成果が「たわわ」に実を付けて、良い収穫が出来る（納得がいく結果を出せる）様に、真摯に励んでいきたい。

人手が要る作業には、元職場の同僚や、農家の仲間が手伝いに来てくれることに本当に感謝しています。

【夢・展望】りんご栽培を軌道に乗せ、自身の農業経営の基盤構築を行い、当初の目標であるシャインマスカットの栽培に取り組み等、将来的には複合経営を目指していきたい。

同会の研修活動は、コロナ禍での制限及び自粛等ではしばらく行っていないかもしれませんが、活動再開に向け会員からの声もあり、一層の見識を深め、親睦を深める目的で行われた今回の研修には16名が参加しました。

研修では、同県山元町の東北最大級のいちご農園を訪れ、東日本大震災で未曾有の津波被害を受けた地域の復興の象徴となつたいちご栽培現場を見学しました。相馬会長は今回の研修について「震災からの復興、そして苦難の道を経て現在に至り、6次産業化にも積極的に取り組み、総合農園を目指し



研修に参加した皆さん

地場やさい連絡協議会県外研修

弘果地場やさい連絡協議会（相馬義彦会長）では11月29日から30日にかけて、宮城県において県外研修を行いました。

同会の研修活動は、コロナ禍での制限及び自粛等ではしばらく行っていないかもしれませんが、活動再開に向け会員からの声もあり、一層の見識を深め、親睦を深める目的で行われた今回の研修には16名が参加しました。

りんご剪定勉強会 開催のお知らせ

- 弘果りんご連絡協議会**
- 平賀** 1月10日（火）9時30分～
場所：葛西誠氏 園地
講師：三浦修氏、葛西厚平氏
- 浪岡** 1月12日（木）9時30分～
場所：前田正彦氏 園地
講師：吉村初雄氏、工藤良和氏
- 大紅菜** 1月16日（月）9時30分～
場所：(有)ヤマセ農園 園地
講師：工藤浩政氏、竹内源三氏

- 津軽りんご市場連絡協議会**
- 1月13日（金）9時30分～
場所：白鳥一成氏 園地
講師：館山毅氏、田沢明裕氏、葛西伸氏



創作文字絵りんご研究発表会

来年の干支「卯」や縁起物の七福神、招き猫、サンタクロース等の絵柄が入った73種類301点の作品が展示され、競売では、スタークジャンボのケース入り3個セット「松竹梅に龍虎鷹」が当日最高値の11万円で購入されました。

岩崎さんは競売後「今年雨が多く、必要以上に玉伸びが進み心配した半面、着色時期の天候が良かったことから、大きさ、着色ともに上々の仕上がりとになりました。今年も高値を付けていただいたことが、来年の作品制作の励みとなります」と話していました。

縁起物ずらり会場を彩る

当社第2卸売場特設会場に於いて11月22日、弘前市下湯口の岩崎智里さんが手掛けた文字絵りんごの研究発表会が行われました。



園児がフラワーアレンジメントを体験

弘前花きでは11月22日、弘前市元長町にある養生幼稚園にて花の体験学習を開催しました。この体験学習は、「青森県花のくにづくり協議会」の花育体験、園芸体験の一環で、花をもっと身近に感じてもらうとうと様々な場所で行っています。

当日は弘前花きからの要請を受け、オザキ・フローリストの尾崎晴江さんが講師となり、27名の園児や先生らとともにアレンジメント体験を行いました。

今回はガーベラやカーネーション、菊を中心にアレンジメントを楽しみ、先生のアドバイスを聞きながら思い思いの作品に仕上げていきました。

養生幼稚園の園長齊藤弘子さんは「今回は家族へ感謝のメッセージを添え、プレゼントとしてアレンジメントを作りました。園児たちはとても集中して花と向き合っており、ひとりひとりの個性が輝いた体験だったと思います。こういった体験はとても貴重で、花に触れることで心が豊かになり、生活のうるおいになってくれれば」と話していました。

この「花育」活動は幼稚園や小学校から老健施設まで幅広く行っており、今後も様々な場所で開催予定です。

弘前花き 花育活動

当日は弘前花きからの要請を受け、オザキ・フローリストの尾崎晴江さんが講師となり、27名の園児や先生らとともにアレンジメント体験を行いました。

今回はガーベラやカーネーション、菊を中心にアレンジメントを楽しみ、先生のアドバイスを聞きながら思い思いの作品に仕上げていきました。

養生幼稚園の園長齊藤弘子さんは「今回は家族へ感謝のメッセージを添え、プレゼントとしてアレンジメントを作りました。園児たちはとても集中して花と向き合っており、ひとりひとりの個性が輝いた体験だったと思います。こういった体験はとても貴重で、花に触れることで心が豊かになり、生活のうるおいになってくれれば」と話していました。

この「花育」活動は幼稚園や小学校から老健施設まで幅広く行っており、今後も様々な場所で開催予定です。

出荷最盛期に向け



現地検討会開催

クリスマスや年末年始の出荷最盛期に向けて田舎館いちご研究会（花田賢一会長）は12月5日、現地検討会を行いました。

同会が出荷するいちごは、平成28年から田舎館ご当地キャラクター「いちご姫」がデザインされたパッケージをまとい、「食味」「品質」とともにこだわって生産しています。そして、青森県内外へ「いちごの産地 田舎館」「美味いいちご 田舎館」を発信しています。

現地検討会では、各会員のハウスを回り生育状況を確認、温度管理や病害虫の防除等、栽培環境について意見交換しました。また、パックの詰め方や粒揃え等、出荷規格の統一を図ることを各会員が確認しました。

花田会長は「会員一同が更なる意識向上及び栽培技術向上に向け取り組んでいます。これから需要期を迎え、本格的な出荷が始まりますので、美味しく高品質ないちごを提供して「田舎館いちご」ブランドをより一層浸透させていきたい」と話していました。



会員のハウスを回り品質を確認